

第3章

良好な景観づくりの目標と基本理念

- 3-1. 景観づくりの目標
- 3-2. 景観づくりの担い手と役割
- 3-3. 景観づくりの基本理念

これまでにあげた、上越市における景観づくりの現況と課題をふまえ、未来に向かって進んでゆく上越市にふさわしい新たな景観づくりの目標と、景観づくりの担い手それぞれの役割、景観づくりのための基本理念を掲げます。

3-1. 景観づくりの目標

私たちの暮らしは、先人たちが積み重ねてきた暮らしの上に築かれています。

暮らしの中の景観は、上越市に暮らす私たちのまちに対する愛着や誇りをはぐくみ、心の拠りどころとなる、市民共有の資産であるといえます。

私たちは、こうした景観と共にある暮らしの中で、上質な美しさを実感することで、まちの景観資産をみんなで共有し継承し、新たな景観資産の価値を蓄積して、次の世代に伝えていく責任があります。

上越市に暮らす私たちのだれもが、日々心地良いと感じ、訪れる人たちにも上越の良さを感じてもらえるような、景観づくりを目指したいと思います。

そこで、上越市の景観づくりの目標として、「自然と風土がおりなす、上質な美しさを実感できるまち」を掲げます。

景観づくりの目標

自然と風土がおりなす、上質な美しさを実感できるまち

3-2. 景観づくりの担い手*と役割

景観づくりの主演は、市民、事業者、行政、専門家、教育機関など、上越市に暮らす私たち一人ひとりです。

日々の生活のなかで、各々が景観を意識し、それぞれの役割を果たすことで「上質な美しいまち」「心地良い景観」がつくられていきます。

(1) 市民の役割

- ・ 市民は自らが景観づくりの主演であることを認識し、地域の特性に配慮した景観づくりに努めるとともに、市が実施する景観づくり施策に協力する。
- ・ 市民は日々の暮らしを豊かで上質なものにするよう心がけることで、景観への意識を高め、個々の暮らしの場における周辺環境に配慮する。

(2) 事業者の役割

- ・ 事業者は自らの経済活動が地域の景観に強く影響を及ぼすことを認識し、開発や建設などの事業活動を行うにあたっては、景観づくりに最大限の配慮をする。
- ・ 事業者は市が実施する景観づくりの施策に対し、積極的に協力する。

(3) 行政（市）の役割

- ・ 市は景観づくりに関する基本的かつ総合的な施策を実施する。
- ・ 市は景観づくりに関する施策の実施にあたって、市民の意見を反映させる。
- ・ 市は公共施設整備を行うにあたって、景観づくりに先導的な役割を果たす。
- ・ 市は市民及び事業者が日常の生活や事業活動において景観づくりについての意識や理解を深めることができるよう、意識の高揚及び支援に努める。
- ・ 市は、国、県その他の地方公共団体及び公共的団体等に対し、上越市の景観づくりについて協力を働きかけ、相互に連携できる体制を整える。

(4) 専門家の役割

- ・ 景観に関する専門的知識や経験を有する者は、市民へ積極的に働きかけ、景観資産を大切にするための取り組みに向け、指導的役割を担う。
- ・ 各分野の見識を活かし、景観資産の価値を市民にわかりやすく伝える。

(5) 教育機関の役割

- ・ 教育機関は次代を担う子供たちに対し、「わがまちの暮らし」や「自然・文化」など、まちの景観に対する「発見」につながる教育を行う。
- ・ 教育機関は生涯学習の場などにおいて、市民に対する景観学習を行う。

* 担い手

人々に親しまれ、愛される『景観』を生み出すためには、私たち一人ひとりが主演となり、自発的な取り組みを積極的に行うことが必要であるとの考えから、それぞれの立場で景観づくりにかかわる市民・事業者・行政・専門家などを総称して「景観づくりの担い手」と表現しています。

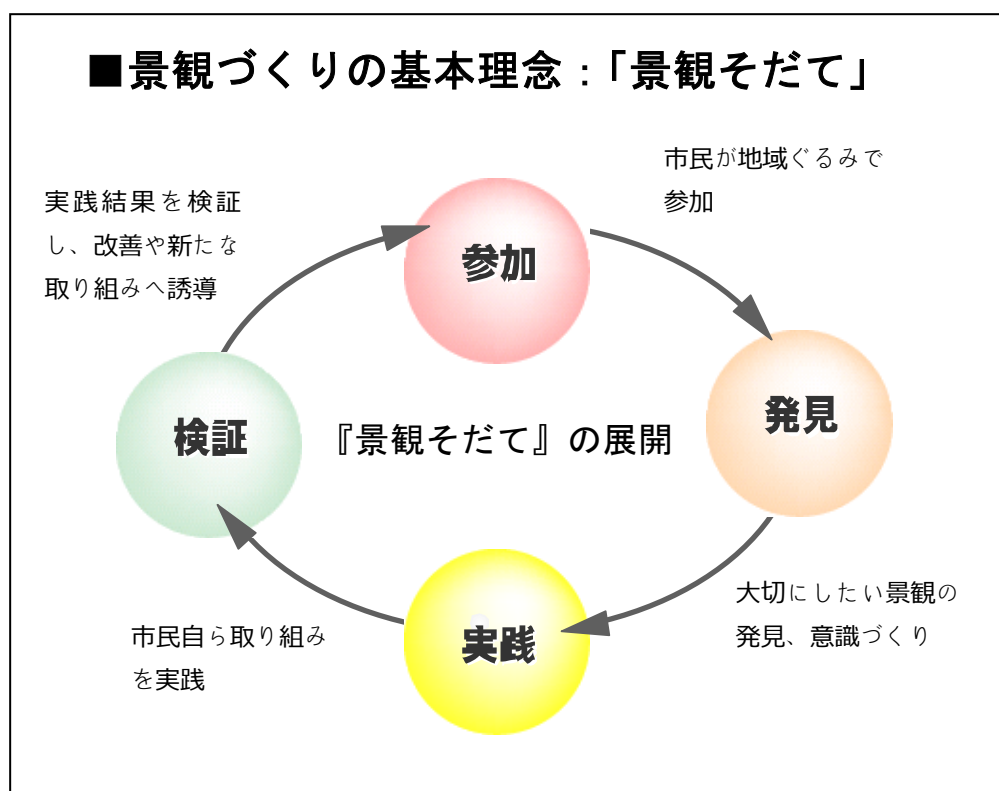
3-3. 景観づくりの基本理念

私たち一人ひとりが「眺める人」となり、景観づくりに参加しながら、大切にしたい景観を発見し、景観づくりの取り組みを実践することによって大切な上越市の「景観資産」を育むことが大切です。そして、その結果を検証し、新たな景観づくりへ誘導していきます。

主役である私たちが、それぞれの役割を認識し、互いに協力しながら、「自然と風土がおりなす、上質な美しさが実感できるまち」の実現に向けて、「参加→発見→実践→検証」のプロセスを大切に展開がとても重要です。

これまでの「上越市景観形成基本計画」においても、こうした展開プロセスを「景観そだて」と名づけて取り組んできました。

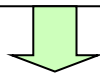
本計画においても、この考えを景観づくりの「基本理念」として継承し、取組を行っていきます。



(1) 展開1：市民が地域ぐるみで参加

「景観そだて」を展開していくためには、景観に関する学習やイベント、四季折々の行事などへの参加を通じて、地域ぐるみで景観を意識していく必要があります。

そして、様々な景観をお互いに持ち寄って共有し、守り、または改善していくための工夫を考えていくことが重要です。

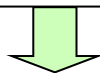


(2) 展開2：大切にしたい景観の発見、意識づくり

「景観そだて」においては、「眺める人」一人ひとりが、大切にしたいもの、好きな場所などを意識して発見することが大切です。

日ごろ見慣れている暮らしの中の景観に気づき、身のまわりにある景観の価値を見出していくための、きっかけづくりがとても重要です。

取り組みへの参加を通じた私たち一人ひとりの発見が、多くの人々に共有され、それが共通の価値となって、上越市民みんなの景観資産を大切にしていくことにつながります。

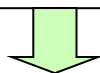


(3) 展開3：市民自ら取り組みを実践

取り組みの実践は、大切な「景観資産」を、未来を担う子供たちや孫たちの世代に引き継いでいくことです。

それと同時に、上越市を訪れる人たちに対する「おもてなし」の視点に立って、地域の魅力を引き出す工夫が大切です。

まずは、自分たちが「上越市の景観をつくっている」ということを意識して、家の前をきれいにし、草花を大切にするなど、一人ひとりにとっての身のまわりを心地良くしていく試みからはじまります。



(4) 展開4：実践結果を検証し、改善や新たな取り組みへ誘導

「景観そだて」を、持続的な展開につなげていくには、実践結果を検証し、改善や必要に応じた規制・誘導につなげていくことが重要です。

こうした検証を通して、上越市の大切な景観資産の共有と蓄積を図り、その取り組みの情報を発信していきます。

これらの取り組みを、新たな展開へと発展させ、次の世代へと引き継いでいきます。

